



神谷 直子 議員

教育基本構想について

問 教育基本構想における高浜カリキュラムについて。

答 高浜の子どもの幼・保・小・中12年間の学びをつなげるための異校種間連携の一つの柱です。ねらいは二つあり、高浜の教育財産である「ひと・もの・こと」を学ぶことと、探求力、表現力、実践力をつけることにあります。これらは、各学年や園で共通のテーマに基づき、総合的な学習の時間で取り組んでいます。

問 高浜カリキュラムにおける、中学生のキャリア教育について。

答 職業の理解を深めながら自己の理想的な生き方を見つけ、その実現に向けて、生涯にわたる努力ができるよう学習内容を組み立てています。キャリア教育というと、職業に特化した学習を指しますが、高浜カリキュラムにおける中学生のキャリア教育では、キャリアを職業や仕事

に限定せず、自分の努力や、体験、知識、技能、考え方を含めています。選択の結果よりも、過程や経験を大切にし、自分と向き合い、理想と現実との差を受け止め、困難に負けずに我慢強さを持ち、リスタートを切れる強い意志を身に着けることを大切にしています。実際には一年生で、高浜で働いている方のお話を聞く職業セミナー、二年生で三日間の職業体験、三年生で赤ちゃんふれあい体験や修学旅行先での職場訪問をします。市の防災訓練も、まちづくり協議会と協力して活動しています。

問 今後の展開について。

答 「中学生のキャリア教育は、様々な出来事の背景にある目に見えない価値や意味を真剣に問い掛けながら自分なりにとらえようとする姿に醍醐味があります」という文部科学省の考え方と、高浜カリキュラムにおける中学生のキャリア教育は一致しており、現在の取り組みを継続していき、平成28年度末に中学校三年生までの単元計画を完成させます。そして、生徒の実態と授業の内容や展開がずれていないかを振り返り、より効果的な授業展開を工夫し、行事との連携を図りたいと考えています。



北川 広人 議員

かわら美術館について

問 開館から20年間の総括と7年間の指定管理期間の管理者に対する評価は。

答 かわらのまち高浜のアイデンティティーを高め、都市ブランドの形成や市民参加による新たなまちづくりにつながり、「協働のまち高浜」を創り上げる上で、重要な役割を果たした。管理者には、特に広報活動では、フレキシブルさで高浜市のPRに大きく貢献し、専門性を有する施設保守により、中長期整備計画を作成。日常の管理・点検により、維持管理コストの削減を図って頂いた。

問 今年度で指定管理期間が終了するが、今後の方向性は。

答 20年で培った美術館のイメージを残しつつ、美術品鑑賞の場から、市民が主体的に関わり、様々な発信ができる文化交流施設を目指す。現指定管理者との協議を進めている。

地域における医療と介護の連携について

問 刈谷豊田総合病院高浜分院の医療・介護面で期待できる役割は。

答 訪問看護ステーションは、日常生活の看護や医療処置、タミナルケアを担っている訪問回数が月300件に達しようとしている。介護のサービス調整を行うケアマネジメント業務や、定期巡回・随時対応型訪問介護看護を担って頂けることを期待する。

問 2025年問題を含めて、西三河南部西医療圏には病床二一は更に増すと考えるが、分院の建替えの今後の展開は。

答 医療法人豊田会は、ベッドを増やすことも考えている。中央公民館の機能移転が予定される中、市の中心地であり、利便性も高く、分院の移転候補地として最適であると考える。将来のこの医療圏域の病床状況を考えると、病院が無くなれば、医療と介護の連携も取りにくくなる。どのようにして病院を残すのか、自立した病院になって頂くことを願いながら、説明会等で市民の皆さんにご理解を頂きながら、進めていきたい。